

1. 調査概要

1.1.調査目的

日本人にとって水は身近な存在である。そして、日本のもつ水の清冽なイメージや水道インフラは世界レベルでも優位性があるものだと日本人は思っているかもしれない。では実際に海外の人々は日本の水文化をどのように認識しているのだろうか。当然、日本人とは異なった水に関するイメージをもっているに違いない。

水イメージについて海外と日本の相違を知れば、私たちがなかなか気がつかない日本の水文化の魅力をあぶり出せるかもしれない。これが本調査の出発点である。

そこで、株式会社 JTB コーポレートセールスの協力を得て、今回は滞日アジア留学生が日本の水についてどのような魅力を感じているのか、ネット調査を行った。

調査内容は主には①日本と出身国の水に対するイメージ、②日本と出身国の水道水への満足度、③日本における水の魅力、の3点である。

以上を中心に報告を行う。

1.2.調査概要

(1)調査対象者及び調査対象数

滞日中の東アジア・東南アジアからの留学生（以下滞日アジア留学生と称す）200名。

(2)調査方法：インターネット調査

(3)調査期間：2014年9月26日（金）～10月24日（金）

※割合については小数点第2位以下を四捨五入して表記しているため、合計が100にならないことがある。

1.3.回答者の属性

回答者の年齢、性別は次の通りである。

表 1.年齢別、性別調査対象者数

年代	女性	男性	総計	構成比
20歳未満	2	3	5	2.5%
20-29歳	86	81	167	83.5%
30歳以上	13	15	28	14.0%
総計	101	99	200	

留学生なので20歳代が中心となっている。

回答者の出身国と滞在期間は以下の通りである。

表 2.出身国別、滞在期間別調査対象者数

国	滞在期間			総計	構成比
	3年未満	3年以上5年未満	5年以上		
インドネシア	3	5	7	15	7.5%
タイ	12	3	5	20	10.0%
ネパール	4	3	10	17	8.5%
ベトナム	12	13	5	30	15.0%
マレーシア	9	11	10	30	15.0%
韓国	6	14	8	28	14.0%
台湾	19	6	5	30	15.0%
中国	12	12	6	30	15.0%
総計	77	67	56	200	
構成比	38.5%	33.5%	28.0%		

回答者は東アジア・東南アジア 8 カ国の留学生である。3 年以上の滞在期間が 61%を占めている。

本調査はこれら出身国者から成る「滞日アジア留学生」の調査である。

回答者が居住している住居は以下の通りである。

表 3.住居形態別回答者数

住居形態	女性	男性	総計	構成比
戸建(一軒家)	3	1	4	2.0%
集合住宅(マンションやアパート、寮など)	98	98	196	98.0%
総計	101	99	200	

回答者の 98%は集合住宅に住んでいる。このことは、後出の水道水に対する評価に影響を及ぼしていることを念頭に置く必要がある。